

本年 7 月は JA 観測史上最も高い気温帯で経過しました。その反面、7/9 以降、降水量がほとんどなく、極端な高温・干ばつ状態が続いています。この影響で、重度の果実の日焼けやハウス内の高温障害等が発生しています。ついては、かん水を最優先に下記の各種対策を講じてください。

7 月気象特記

- ① 気温：月間平均 26.0℃（平年比+2.1℃・過去最高）、下旬平均最高気温 34.1℃（過去最高）、猛暑日 7 日（最高 7/30 36.2℃）
- ② 降水量：月間合計 104 mm（平年比 61%）⇒ 中下旬の降雨量はわずか 4.0 mm（7/28～29）
- ③ 1～7 月の降水量合計 476.5 mm（平年比 76%）⇒ 梅雨期間の降水量は 38.5 mm と極小

1. 共通

- ① **かん水【重要】**
天候やほ場の水分状態、土壌条件にあわせて、適宜かん水を行う。尚、かん水設備のない地域では土の湿潤状態を確認し、かん水が必要な場合は、樹冠下を中心に、ほ場面積の 60% 程度を目安にかん水を行う。かん水後は、蒸散防止のため、敷きワラ・マルチ等を行う。
- ② **熱中症予防**：炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控えてください。また、作業中は、帽子等の日焼け防止対策を万全にするとともに、十分な水分補給と休息時間を確保し、体調がすぐれない時は作業を中止してください。
- ③ **害虫対策**：ハダニ類・シンクイムシ類・アザミウマ類等が急増中です。適期防除に努めてください。特に散布量は多めに設定してください。

2. 果樹

- ① **日焼け防止対策**：主枝・垂主枝等の背面部分は日焼け果が発生しやすい。徒長枝は全て切らずに、間引く程度か、30 cm 程度残して切除して、「日焼け防止枝」を設ける。葉がない部分は、白塗剤等で日焼け防止対策を講じる。
- ② **新梢整理**：日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する
- ③ **りんご**：園の南～西側の樹体を寒冷紗等で覆うと、日焼け果の発生が軽減される。尚、極度の乾燥を受けると果実肥大が抑制され、葉焼けが発生することがあるので、定期的にかん水を行う。
- ④ **ぶどう**：日当たりの良い所（主枝延長枝や若木、また弱樹勢樹など）中心に日焼けが発生しています。袋かけの際は傘かけを必ず行う。日当たりの良い場所では遮光率の高いクラフト笠・タイベック傘を利用する。併せて、果粒肥大の重要な時期であるので、適宜かん水に努め粒肥大促進に努める。水まわり期の直前に水分ストレスを受けると縮果症の発生が心配されます。極端な新梢管理は水回り期以降に実施し、併せて適宜かん水を実施する。
- ⑤ **もも**：日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する 2～3 日前に袋の下部を破り、馴らしてから除袋を行う。また、ピーチ袋等のワックス袋は、日射により高温障害が発生する場合がある。高温が続く場合は、ワックス袋の下部をあげるか、袋を外すなどして対応する。収穫期を迎えた品種では、高温により成熟が進むため、果肉硬度を参考にしながら適期収穫を行う。尚、中晩生品種では高温により成熟が遅れる場合がある。
- ⑥ **ナシ**：葉焼け症状（葉に黒色斑点や黄変等）が発生中です。高温乾燥は果実肥大や日焼け果発生への影響が大きいため、定期的にかん水を行う。

3. 野菜・花き・水稻

- ① 急激な気象変化は、大きなストレスになるので、栽培品目の生育ステージや土壌条件等に応じて、かん水などの適正な管理を行う。
- ② 強日射が続いています。日焼けや着果不良を防止するため、寒冷紗や遮光資材を用いて、できる限り温度低下に努める。
- ③ ハダニ類・アザミウマ類が急増中です。適期防除に努めてください。尚、高温時の薬剤散布は薬害が発生しやすいため注意する。詳しくは、各特報または防除暦を参考にしてください。
- ④ **野菜**：カルシウム欠乏対策：高温・乾燥が続くとカルシウム欠乏による生理障害（心腐れ、縁腐れ、尻腐れ等）が発生しやすいので、夕方等涼しい時間帯にかん水を適宜行い、カルシウム資材の葉面散布を行う。また、きゅうり、なす等の果菜類では不良果は、早期に摘果し、株の負担を少なくして草勢の維持を図る。古葉や病害葉は摘除する。
- ⑤ **水稻**：生育は進んでおり、出穂期は平年より 7～10 日早まると予想される。出穂から 3 週間程度の間、連続して高温が予想される場合は、掛け流し等により地温の低下を図る。また、干ばつ後には、ウンカ・ヨコバイ類及び高温な年はカメムシ類が発生しやすいので、発生状況を見て適期に防除を行う。
- ⑥ **花き**：収穫は午前中の涼しい時間帯に行う。収穫ネットのまま花を積んでおくと熱がこもるため、長時間積んだままにせず、早めに水上げを行う（しおれ防止）。コギク、アスター、ソリダコは、開花遅延を軽減のため涼しい時間帯の灌水を行い、盆前出荷を目指しましょう。